

解明進む古代の役所構造

⑤史跡 赤井官衙遺跡群 (東松島市赤井)



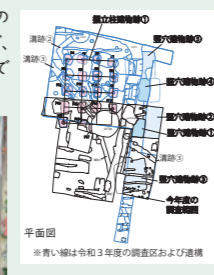
石巻平野を東西に延びる標高2mほどの微高地上に立地する奈良・平安時代の役所跡です。東松島市教育委員会による発掘調査が昭和61年から継続して行われています。

令和5年の調査の結果、7世紀末から9世紀初めの格子状に柱が配置された遺跡内で最大規模の総柱の建物跡がみつかりました。

総柱の建物跡は倉庫と考えられ、最大規模の倉庫が倉庫地区とは別な場所で見つかり、周囲には豪族の居宅があることから、この場所の性格が目ざれます。

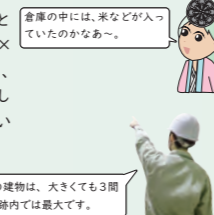


柱を立てるために掘った穴の大きさは、長さ約140cmで、柱の大きさは直径約30cmです。柱材が残っていました。



総柱の建物跡を構成する柱と柱の間の数(間)は、4間×3間で、規模は南北8.8m、東西6.6mです。柱穴は新しい時代の穴などに壊されていました。

過去の発掘調査で見つかる総柱の建物は、最大でも3間×2間のため、今回見つかったものは遺跡内では最大です。



協力：東松島市教育委員会

城内最大級の鍛冶工房の発見

⑦特別史跡 多賀城跡附寺跡 (多賀城市市川)



多賀城市北部の丘陵上に立地する、奈良・平安時代の陸奥国府です。奈良時代には軍事を担う鎮守府も置かれ、東北地方の行政・軍事の中心的施設でした。

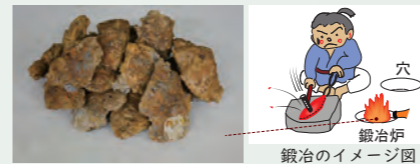
多賀城跡調査研究所による発掘調査が昭和44年より継続して行われています。

調査の結果、8世紀末～9世紀前半頃の鍛冶炉が見つかり、周辺からは鉄製品や多数の鉄滓が発見されました。

政庁のすぐ北側で、集中的に鉄製品の製作が行われていたことがわかります。



鍛冶炉は、同じ場所で作り直されているものもありました。また、炉の周りや穴には、多くの炭や鉄製品、鉄滓がみられたことから、鍛冶で不要となったものを捨てていたと考えられます。



最低1回の鍛冶で1個排出される梘形滓(鉄の成分がわずかにしか含まれない梘形をした不純物の塊)が100個以上もみつかり、これまでに域内でみつかる量と比べても最大級です。

鍛冶炉の年代が、伊治公麻呂の乱(780年)に近いため、乱によって焼失した政庁の復旧に使う鉄製品をこれらの鍛冶炉で作っていた可能性があります。

協力：宮城県多賀城跡調査研究所

木炭窯跡を新たに発見！

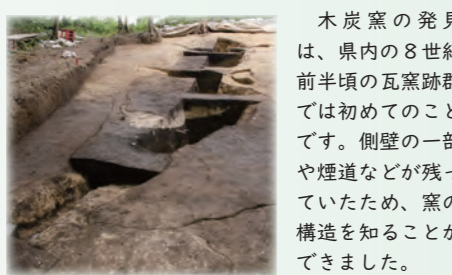
⑥史跡 大吉山瓦窯跡 (大崎市古川小川)



江合川左岸の丘陵上に位置する、陸奥国府多賀城や付属寺院の多賀城廃寺に瓦を供給した奈良時代の窯跡です。

多賀城跡調査研究所による発掘調査が令和3年から行われています。

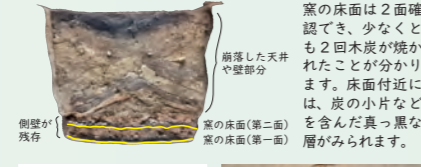
調査の結果、多数の瓦とそれらを焼成した窯、木炭を焼成した窯がみつかりました。



木炭窯の発見は、県内の8世紀前半頃の瓦窯跡群では初めての事です。側壁の一部や煙道などが残っていたため、窯の構造を知ることができました。



木炭窯の長さは約5.8m、天井は奥壁で約1.0mの高さがあり、平面形は羽子板状をしています。



木炭窯と瓦窯では、煙を排出する部分の仕組みが違っているんだね！

協力：宮城県多賀城跡調査研究所

よみがえる壮大な大手門

⑧史跡 仙台城跡 (仙台市青葉区川内)

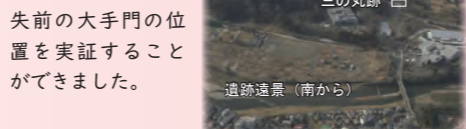


仙台城跡は、仙台市の市街地西方に位置し、広瀬川の対岸にある仙台城下を一望できる青葉山に立地しています。

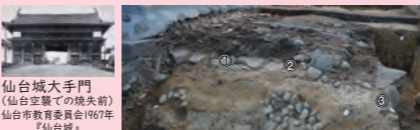
仙台市教育委員会により大手門の将来的な復元に向けた発掘調査が、令和5年から開始されています。

調査の結果、大手門の礎石の据付穴が3箇所みつけられました。

大手門の一部を確認できたことから、絵図や写真で記録されている焼失前の大手門の位置を実証することができました。



礎石の据付穴(黄色)には、18cm以下の河原石のまどまりがみられました。



河原石は、根石とよばれるものです(礎石を安定させるため周囲に詰められた石)。礎石は戦後の工事で失われていました。

大手門の復元に向けた大きな手がかりだね。大手門についていろいろわかるのがとっても楽しみ！

協力：仙台市教育委員会

発

掘



大吉山瓦窯跡 (大崎市)

赤井官衙遺跡 (東松島市)

令和5年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財課



多賀城跡 (多賀城市)

西岡遺跡 (加美町)

調

査

高沢遺跡 (仙台市)

焼沢遺跡 (村田町)



今回のパネル案内人 **れんげもんちゃん**

宮城県生まれの、瓦の妖精。頭の軒丸瓦(蓮花文)がチャームポイント。

詳しい解説＆これまでの発掘動画はYouTube「みやぎ文化財チャンネル」で公開中！



このパンフレットのPDFデータは、ホームページからダウンロードできます。(右のQRコードを読み込むか、「宮城県発掘調査パネル展」で検索)



時代・年代と主な出来事

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約 6,200 箇所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことが私たちの責務と考えております。

県内では毎年、一年に約 300 件から 500 件の発掘調査が県や各市町村の教育委員会、大学などの教育機関によっておこなわれています。今回は令和5年度におこなわれた調査のなかで、特に注目すべき8つの遺跡の成果についてご紹介いたします。

県教育委員会では、遺跡の保存と活用を全力をあげて取り組んでおりますが、この機会に遺跡に親しんでいただき、地域の遺跡や文化財保護へのご理解を深めていただくきっかけになれば幸いです。

今回の展示にあたって快く協力いただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

1 旧石器時代
約800~100万年前 アフリカで人類が誕生する
約4万年前 後期旧石器時代が始まる

2 縄文時代
土器や弓矢が便利になるようになり、狩猟や採集によって、食料を得て、定住生活をしていました。
約1万6000年前 土器・弓矢が出現する
約5000年前 三内丸山遺跡（青森市）で集落が営まれる
約4000年前 東北北部で環状列石が多くつくられる。

3 弥生時代
稲作が行われますが、狩猟・漁撈活動は縄文時代に引き続き活発に行われました。
紀元前400年 東北地方で米作りが始まる
紀元前300年 仙台平野において水田の遺跡が始まる

4 古墳時代
各地に出現した有力者が権力の象徴として数多くの古墳を築りました。
400年頃 豪族が盛んに古墳を造る

5 飛鳥時代
645年 推古天皇、小野妹子を遣わす（遣隋使）
645年 大化の改新

6 奈良時代
平城京が都になった時代で、天皇を頂点とする中央集権体制が本格的に始まりました。
710年 平城京（奈良市）に都を移す
724年 多賀城が建設される
752年 東大寺の大仏が完成する
780年 蝦夷の反乱で多賀城が火災にあう

7 平安時代
平安京が都になった時代で、天皇や貴族を中心とした王朝文化が開花しました。
794年 平安京（京都市）に都を移す
868年 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける
894年 遣唐使の派遣が停止される
1169年 平清盛が太政大臣となる

8 鎌倉時代
1182年 源頼朝が征夷大将軍になる
1219・1281年 文永・弘安の元寇（元寇）が起こる

9 室町時代
1338年 足利尊氏が室町幕府を開く
1467年 応仁の乱が起こる

10 安土桃山時代
1568年 豊臣秀吉が天下統一する
1600年 仙台城の築城が始まる

11 江戸時代
徳川家康により江戸幕府が開かれ、幕藩体制が確立しました。
1600年 徳川家康が江戸幕府を開く
1611年 豊後・陸奥津波で仙台平野が大きな被害を受ける

12 明治時代
明治維新
1854年 明治天皇が東北を巡幸する。

高田山遺跡
大宮山五葉跡
多賀城跡附寺跡
仙台城跡

西岡遺跡
赤井官衙遺跡群
大宮山五葉跡
多賀城跡附寺跡
仙台城跡

高田山遺跡
外枠の色は、それぞれの時代の長さを表しているんだね！
こうしてみると、旧石器時代と縄文時代って、とても長いことがわかるね！
れんげもん ちゃん
宮城県生まれの、瓦の妖精。頭の花丸瓦（蓮花文）がチャームポイント。

宮城県文化財課技師
宮城県文化財課の職員。パネルの内容を補足します。

遺物が浮きぼりにする縄文の営み

② 姥沢遺跡（村田町沼田字姥沢）

西に蔵王連峰を望み、南北を小川に挟まれた丘陵の北側に位置する縄文時代の集落跡です。東北大学と村田町教育委員会により令和元年から継続して調査が行われています。調査の結果、2箇所遺物を含む層（遺物包含層）が確認され、黒土の箇所からは約 5000～4000 年前（縄文時代中期～後期）の多くの土器や石器、土製品がみつかりました。

出土品からは、遠隔地との関わりや狩猟採集を行っていた様子、緻密に作られた装飾品をつけて生活していた情景がありありと目に浮かびます。

縄文土器は様々な文様や装飾を持つものがみつかりました。
A: 橋状把手
B: 刻み隆帯
C: 花卉状刺交文

この土器は、上部の立体的な装飾 (A) や中央を区画する刻み線 (B)、下部の連続した点 (C) に新潟県周辺の土器と共通した特徴がみられます。

縄文時代の土器には、地域・時代ごとに特徴的な形や文様がみられます。

石鏃は矢の先につける石製の鏃であり、狩りに使用されていた。石鏃は、動物の皮に穴をあけるために利用されたと考えられています。

耳飾りは、耳たぶに穴を空け、はめ込んで装着する装飾品と考えられています。

協力：東北大学・村田町教育委員会

古墳文化の集落でみつけた北方の文化

④ 西岡遺跡（加美町上狼塚）

加美町東部の名蓋川左岸の河岸段丘上に立地する古墳時代の集落跡です。農道改良工事に伴う発掘調査が加美町教育委員会により令和2年から行われました。調査の結果、5世紀頃の竪穴建物跡や穴がまどまってみられ、多数の土器や石器、石製品などの遺物が出土しました。

竪穴建物跡や出土品の多くは、古墳文化の特徴を示していますが、その中には同時期に宮城県北部から北海道に広がっていた続縄文文化に特徴的な黒曜石製の石器がみられます。このことから、当時の文化の交流を考える上で注目されます。

今年度調査区の平面図

古墳時代の竪穴建物跡や土坑

今年度調査区 (SI141)

古墳文化に特徴的な出土品

直径 8mm のガラスの小さい玉 (左) や白玉 (中央) に穴のあいた円盤状の石製品 (右) は、紐などに何個もつなげていました。

鏡をかたどったミニチュアの石須恵器の製作技術です。須恵器の製作技術は朝鮮半島から伝わりました。

古墳の副葬品にもみられるガラスの小さい玉や白玉などの装飾品や須恵器、祭祀に使用された石製品が出土しています。また、多くの土器が出土しています。

続縄文文化に特徴的な出土品

この遺跡の人々は、古墳文化の生活様式を基本としながら、続縄文文化に特徴的にみられる石器を使用した。スクレイパー

黒曜石製の石器には、周囲に刃が付けられた搔器 (スクレイパー) がみられ、動物の皮をなめす作業に使われていました。

石器の使用は、儀礼品と砥石を除き、古墳文化にはみられず、北方の続縄文文化に特有です。

協力：加美町教育委員会

縄文人の知恵！狩りの工夫

① 高田山遺跡（栗原市築館高田）

築館の市街地南側のなだらかな丘陵とそのすそ野にかけて広がる縄文時代の集落跡です。令和4年から市道の工事に伴う発掘調査が栗原市教育委員会により行われました。調査の結果、縄文時代中期以前（～5000年前）のものともみられる楕円形や細長いかたちをした穴が12基みつかりました。

これらの穴は、動物をとらえるための罠（陥し穴）と考えられ、一列に並ぶように配置されているなど、効率的に動物を捕らえるための縄文時代の人々の工夫がみられます。

楕円形の陥し穴は、長さ約135cm、幅約90cm、深さ約80cmで、底に杭を立てていたと考えられる小さな穴がみられます。

細長いかたちをした陥し穴は、長さ約280cm、幅約40cm、深さ約80cmです。底面に向かって幅が狭くなっています。

楕円形のは獣道に、細長いものは動物の群れが集まる場所につくられたと考えられています。

協力：栗原市教育委員会

弥生時代の米づくり

③ 富沢遺跡（仙台市太白区）

一番下の水田耕作層が弥生時代の層となります。この層より上部の堆積の様子から、この場所が断続的に水田として利用されていたことがわかります。特に古墳時代・古代の時期は洪水による堆積の上に水田堆積層が確認でき、水田が同じ場所で営まれ人々の生活を支えていたことがわかります。

まるでケーキのようにきれいに色が分かれていますね。調査ではこの層を一枚一枚慎重に掘り進めていったんだ！

古墳時代の水田跡
古代の水田跡

古墳時代と古代の水田跡では畦畔(あぜ)が確認されました。これにより、当時の水田も現代と同じように畦畔で田面を区画し、水の動きを制御していたことがわかります。

協力：仙台市教育委員会

竪穴建物跡 (SI141) の平面写真

一辺が 6.7m の竪穴建物跡 (SI141) の中央部分で、左右側は調査区外にのびています。平面形は四隅が角ばる方形をしており、北側にカマドが据え付けられています。古墳文化には、このような方形で北側にカマドが据え付けられる竪穴建物が見られます。

カマドの燃焼部底面からは、カマドに据えた甕などを支える台(支脚)がみつかりました。

支脚は、土師器（高坏）の脚の部分を使用していました。

古墳文化を示す特徴としては、方形の竪穴建物や土師器の使用がみられるため、この遺跡に住んでいた人々は、古墳文化の生活様式を基本としていたと考えられます。

カマドのイメージ図

用語解説

竪穴建物：地面を方形や円形に掘りこぼめ、床と壁をつくり、柱を立て屋根をかけた半地下式の建物です。

土師器・須恵器：土師器は浅く掘りこぼめた穴の中で比較的低温（700～800度）で焼かれた素焼きの土器です。須恵器も素焼きの土器ですが、密閉度の高い窯により高温（1000度以上）で焼かれ、器面が硬く焼きまっています。

石製模造品：器物や人・動物などを石で小型に模造したものです。まつりなどに使用されたと考えられています。

続縄文文化：弥生～古墳時代に北海道から宮城県北部にかけて広がった文化で、縄文時代に引き続き狩猟・漁撈・採集を中心としたと考えられています。

陸奥国：現在の福島県から宮城県（平安時代には若手県南半部を含む）にあたります。

国府：飛鳥～平安時代、律令国家が全国に設置した国の役所です。政府の任命した役人（国司）が都から派遣されて政治を行いました。

鎮守府：鎮兵を指揮・監督する役所で、蝦夷に対する様々な軍事政策を担当する機関です。

これほりのきみあざまる
伊治公告麻呂の乱：もと蝦夷の有力者伊治公告麻呂が、伊治城で陸奥国の国司の紀広純らを殺害し、押し寄せた蝦夷が多賀城に放火した事件です。